

# 幼児のごっこ遊びの変容

—逆メタ・コミュニケーションに着目して—

Transformation of kindergartener's make-believe play:  
Analyzing Gyaku-meta-communication

宮 島 麻衣子\*<sup>1</sup>, 山 内 紀 幸

Maiko MIYAZIMA, Noriyuki YAMAUCHI

## 概 要

ごっこ遊びにおける「逆メタ・コミュニケーション」の研究を通じて、以下の二つの点が結論として指摘できた。一つ目は、「逆メタ」は、それを発話した子どもの欲求や意図だけでなく、その意図がなくとも効果としてそう受け取られるという複雑な様相を示している点である。発話者が意図的に「逆メタ」を発信したり、発話者の意図が不明瞭でも聞き手が「メタ」を「逆メタ」と捉えたり、聞き手が「メタ」を「逆メタ」で返答したりするなど、多様な「逆メタ」の姿が明らかになった。二つ目に、「逆メタ」の発生には、必ず先行してきっかけとなる場面の变化と行為の变化が存在することが明らかになったことである。先行してある場面と行為の变化が、「逆メタ」の発生の誘因となり、さらにその「逆メタ」が次の場面の「メタ」として展開していくのである。

## I 問題設定

メタ・コミュニケーションという概念を最初に提唱したのは動物行動学者のベイトソン (1955) である。彼は、動物のじゃれつき戦い遊びを観察して、相手を攻撃する行為を示しつつ (メッセージ), 身ぶりや表情などムードサインを通じて「This is play (これは遊びだ)」というメタ・メッセージも発信しているとして、それをメタ・コミュニケーションと名づけた。子どものごっこ遊びは、「This is play」というメタ・メッセージを絶えず発信しながら、遊びにおける想像的なコミュニケーションを進行させているのである。こうしたメタ・コミュニケーションを前提とした遊び研究はこれまで日本でも多くなされてきた (加用 1981; 加用 1992; 富田 1996; 小山 1998)。

ごっこ遊びのメタ・コミュニケーションの研究を通じて見えてきた課題は、このメタ・コミュニケーションが、当初ベイトソンが想定したものよりもより複雑なものである可能性が示唆されている。加用ら (1996) によると、子どもは加齢に伴いメタ・コミュニケーションである「セリフ」とは別に、「あなたがお母さんで、私がおねえちゃんね」というような立場や役割を明確にする「枠発言」を巧妙に使い分けられるようになることを指摘している。また、メタ・コミュニケーションの逆形態の存在も指摘されている。背後に現実的な欲求や意図のぶつかりあいがありつつ、その対立がセリフに混合されてやりとりされるというものである。これは、加用によって「逆メタ・コミュニケーション」とされ、ごっこの進行過程ではこうしたコミュニケーションがよくやりとりされてい

\*1 木の花保育園保育士

るという (加用 1998)。

本研究では、この逆メタ・コミュニケーションに着目しつつ、幼児のごっこ遊びがどのように変容するのかを分析していくことを目的とする。一連のごっこ遊びのやりとりの中で、逆メタ・コミュニケーションがどのような効果を及ぼし、その発生がごっこ遊びの流れにどのような機能を果たすのかを見ていきたい。

## II 研究方法

- (1)対象：Y県内のY幼稚園に通園する5歳児クラスの幼児
- (2)観察期間：2009年4月から6月までの月曜日、計9回、12事例。  
午前9時から午前11時まで自由遊びの時間帯
- (3)観察方法：対象児のごっこ遊びの場面、またはごっこ遊びが始まりそうな場面を探し、ビデオで撮影しながら観察した。後日、12事例を記録として書き

起こした。

- (4)分析視点：逆メタ・コミュニケーションが含まれ、ごっこ遊びが変容していく様子が確認できる1事例(平成21年5月11日)に注目し、刈田(2001)の劇学的プロセス分析の視点を用いつつ、ごっこ遊びの変容を分析していった。

## III 結果と考察

- (1)ガソリン：場面①～④

表1-1、年長クラスの男児による「船乗りごっこ」の一部始終(場面⑧まで)中の、最初のやりとりである場面①～④である。ここでは、「ガソリン」が逆メタ・コミュニケーションのキーワードとして登場する。表2は、この場面①～④のそれぞれの幼児の発言の中で、この、「ガソリン」がメタ・コミュニケーションと逆メタ・コミュニケーション(以下「逆メタ」と呼ぶ)のどちらで機能していたかをみたものである。

表1-1 ガソリン：場面①～場面④

(メンバー：K, A, M [年長クラスの男児] H, T, E, S [年少クラスの女児])

発言	事 例	行為と場面の变化
	<p>場面①</p> <p>K, M, Aの3人はのぼり棒で遊んでいる。のぼり棒の隣にある船の固定遊具をKが見つける。</p>	<p><b>場面</b> K, M, Aが遊んでいる隣に、誰も乗っていない固定遊具がある。</p>
1	K 「M, 船乗ろうぜ」	<p><b>行為の変化1</b> Kに誘われて、のぼり棒で遊んでいたM, Aが船に注目する。</p>
2	K 「Mが最初ひとりで乗ってもいいよ」	
3	K 「おいでー！」	
	<p>M, Aをのぼり棒まで迎えに行く。 M, Aは靴下をはいている。 3人がのぼり棒にいる間に、年少児のHとTの2人が船にのる。 靴をはいたMがかけ寄り、HとTの乗った船をおしてあげる。 HとTは船から降りて、船をおす側になる。 Mは船に乗り込む。 HとTは船をおそうとする。 AとKも船に集まる。</p>	<p><b>場面の变化1</b> 年少児のHとTがやってきて船に乗る。 <b>行為の変化2</b> HとTが先にいたので、Mは乗らずに、船を押す立場となる。 <b>場面の变化2</b> 乗っていたHとTは船から降り、船をおす側になろうとする。</p>
4	K 「船にガソリン入れる！」	<p><b>行為の変化3</b> K, M, Aは船をおす側を譲らず、ガソリンを入れる。</p>
5	A 「ガソリン入れる！」	
	<p>HとTの存在には触れず、砂を船の丸い模様にかける。(砂がガソリンで、船の模様の部分がガソリン入れ)</p>	

<p>6 7</p>	<p>K M</p> <p>ガソリン入れることを聞いたHとTは船をおす位置から離れる。 「よし、ガソリン入れまくるぞー」 「大型連休だもんねー」 M, K, A は船をおすポジションにつく。 HとTは船に再び乗る。 M, K, A は船をおす。</p>	<p><b>行為の変化3</b> K, M, A は船をおす側を譲らず、ガソリンを入れる。</p> <p><b>場面の变化3</b> HとTは船をおす位置から離れて、距離をおいたところで見ている。</p> <p><b>場面と行為の繰り返し</b> HとTが再び船に乗り、K, M, A が船をおす。</p>
<p>8 9 10 11 12 13</p>	<p>場面②</p> <p>場面①とは異なる年少児のEとSが船のところへ来る。 「貸してー」 「いいよ」 「ここになら乗ってもいいよ」 Kは空いてる席を指差す。 H, T, E, S を乗せて再び船を押す。 「ストップ、降りたいです」 乗っていたH, T, E, S は船を降りる。船は空になる。 A, K は誰も乗っていない船を押し続ける。 「もうガソリンないんじゃないの？」 Mは船の前方へ行き、ガソリンを入れる素振りをする。 K, A は押していた船から急に離れ、無人で動く船に大笑いする。 Mは一人で激しく船を動かす。 宮島 「ねえ、誰も乗っていないけどお客さん居ないの？」 あまりにも勢いよく船を動かしていたため、Mに声をかける。</p>	<p><b>場面の变化4</b> 場面①とは異なる年少児EとSが「貸して」と声をかける。</p> <p><b>行為の一定化</b> K, M, A は年少児の客を乗せて船をおすことを楽しんでおり、それを続ける。</p> <p><b>場面の变化5</b> 船に乗っていたH, T, E, S が降りる。</p> <p><b>行為の一定化</b> 客がいなくなったが、A, K は船をおし続けている。</p> <p><b>行為の変化4</b> Mがガソリンを入れる。</p> <p><b>行為の変化5</b> K, A は船から離れ、Mは一人で激しく船を動かす。</p> <p><b>場面の变化6</b> 研究者の介入がある。(激しく動かしすぎていて危ないため)</p>
<p>14 15 16 17</p>	<p>場面③</p> <p>「ストップ！」 「はい、終点です」 HとTは船に乗りこむ。 M, K, A は再び船をおす。 「もうないよ、ガソリン」 M, K, A は船を止め、ガソリンチェックをする。 「ガソリンが少なかったみたいだな」 砂を丸い模様のくぼみに入れる。 HとTは船を降り、どこかへ行く。</p>	<p><b>場面の变化7</b> 客になったHとTが再び戻ってきて船に乗る。</p> <p><b>行為の一定化</b> K, M, A は船乗りとなって船をおし、しばらくしてからガソリンを入れるために船を止めることを続ける。</p> <p><b>場面の变化8</b> HとTは船を降りる。</p>
<p>18 19 20 21 22 23 24</p>	<p>場面④</p> <p>今度は、Mが船に乗る。 「10, 9, 8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1！」 「10, 9, 8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1！」 K, A は同時にカウントダウンをする。 激しく船を動かす。 「うわー、お乗りの方！お乗りの方！」 「ストップ」 「ガソリンないじゃん」 「ガソリン入れたら点検修理する！」 Aは船を動かそうとする。 「ちょっと待って」 Kは急いでガソリン入れる。 A, K は2人で船を激しく動かす。</p>	<p><b>行為の変化6</b> Mが船に乗り、K, A が船をおす。</p> <p><b>行為の変化7</b> K, A は船を止める。</p> <p><b>行為の変化8</b> Kがガソリンを入れた後、点検修理はせずにA, Kは船をおす。</p>

表1-2 場面①~④におけるメタと逆メタ

	場面①	場面②	場面③	場面④
発言	発言4	発言12	発言16	発言22
M(年長)	メタ	メタ	メタ	メタ
K(年長)	メタ	—	メタ	メタ
A(年長)	メタ	—	メタ	メタ
H(年少)	逆メタ	不在	メタ	不在
T(年少)	逆メタ	不在	メタ	不在
場面の变化	◇年少児のH, Tが船に乗る。(場面変化1)			
行為の変化	◇H, Tが船に乗った為に、船を押す立場となる。(行為変化2)			

### <考察>

表1-2の場面①は、「船にガソリン入れる！」(発言4)というKの発言が、M, A, H, Tにとってどのように受け取られているかを表したものである。発言4は、Kによる船(乗り物)からガソリンをイメージしたメタ・メッセージであるといえる。M, AはKのメタ・メッセージを受け取り、砂をガソリンに見立てたり、「大型連休」といった発言(発言7)をしたりして、ごっこ遊びを広げていく。しかし、年少児のHとTには逆メタとして捉えられている。船をおす位置に来たHとTを迎え入れずにガソリンを入れたこと、H, Tは船をおす位置から離れたこと、Kの「ここになら乗ってもいいよ」(発言10)という発言で、年少児の役割を船の乗客に限定したことからいえる。

表1-2の場面②は、「もうガソリンないんじゃないの」(発言12)というMの発言が、K, Aにとってどのように受け取られているかを表したものである。H, Tに加えて年少児のEとSが船に乗る。場面①から引き続き、K, M, Aの目的は行為が一定していることから「年少のお客さんを乗せて、船をおす」ことであるといえる。場面の变化5で、H, T, E, Sの4人は船を降りる。その後、誰も乗っていない船をおし続けるK, AにMは「ガソリンないんじゃないの」(発言12)と、尋ねる。K, Aは船から離れるが、Mと一緒にガソリンを入れようとはしていない。M

のメタ・メッセージが届いていないということであるので、AとKは「—」とした。また、Mが船を止め、ガソリンを入れた後に再び激しく船を動かす行為がある(行為変化4, 5)。これは、ガソリンがなくなると船が動かなくなるルールを共通理解したいということが発言12、行為の変化5からわかる。場面②ではルール共通理解はされないものの、Kの「ガソリンが少なくなったみたいだな」(発言17)という発言から、Mのルールは場面③で共通理解されたといえる。

表1-2の場面③は、「もうないよ、ガソリン」(発言16)というHの発言が、M, K, A, Tにとってどのように受け取られているかを表したものである。場面②で船を降りたHとTが再び船に乗り込む。場面②と同様にM, K, AはHとTを乗せて船をおす。これまで「ガソリン」というキーワードはM, K, Aのみの間だけで使われていた。しかし、年少児のHが「もうないよ、ガソリン」(発言16)と、M, K, Aにメタ・メッセージを発信する。M, K, Aは船を止め、ガソリンをチェックした後にガソリンを入れる。Hのメタ・メッセージをM, K, Aが受け取ったことから全員「メタ」であるといえる。ガソリンがなくなると船を止めるというルールが全員に理解されたのだとわかる。

表1-2の場面④は、「ガソリンないじゃん」(発言22)というKの発言が、M, A, H, Tにとってどのように受け取られているかを表したも

のである。乗客が誰もいなくなった船に、今度は M が一人で乗る。K, A は、M を乗せた船を激しく動かし、M の「ストップ」(発言21)を受けて船は止まる。K の「ガソリンないじゃん」(発言22)という発言に、発言23やガソリンを入れるのを待つ A の姿から、M, A は K のメタ・メッセージに応じているため 3 人とも「メタ」である

ことがわかる。

(2) 点検・修理：場面④～⑥

表 2-1 は、「船乗りごっこ」の場面④～⑥である。ここでは、「修理・点検」が「逆メタ」のキーワードとして登場する。表-4 は、この場面④～⑥のそれぞれの幼児の発言の中で、「点検・

表 2-1 点検・修理：場面④～場面⑥

(メンバー：K, A, M [年長クラスの男児] D [年中クラスの男児] R [年少クラスの男児])

発言	事 例	行為と場面の变化
18 19 20 21 22 23 24	<p>場面④</p> <p>今回は、M が船に乗る。</p> <p>K 「10, 9, 8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1!!」</p> <p>A 「10, 9, 8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1!!」</p> <p>K, A は同時にカウントダウンをする。激しく船を動かす。</p> <p>M 「うわー、お乗りの方! お乗りの方!」</p> <p>M 「ストップ」</p> <p>K 「ガソリンないじゃん」</p> <p>M 「ガソリン入れたら点検修理する!」</p> <p>A は船を動かそうとする。</p> <p>K 「ちょっと待って」</p> <p>K は急いでガソリン入れる。</p> <p>A, K は 2 人で船を激しく動かす。</p>	<p>行為の変化 6 M が船に乗り、K, A が激しく船をおす。</p> <p>行為の変化 7 K, A は船を止める。</p> <p>行為の変化 8 K がガソリンを入れた後、点検修理はせずに A, K は船をおす。</p>
25 26 27 28	<p>場面⑤</p> <p>M 「ちょっと待って、点検しなきゃ!」</p> <p>船を止める。</p> <p>A 「今度は俺が乗る」</p> <p>M 「K, 点検しようよ!」</p> <p>A は点検せずに船に乗る。</p> <p>M 「修理しなくちゃ」</p> <p>M も船に乗り込み、座席にかかっている砂を除きながら修理する真似をする。</p> <p>K が 1 人で船を動かす。</p>	<p>場面と行為の繰り返し 船を動かす K, A に対し、M 君は点検修理をしようと訴えることを何度か繰り返す。</p>
29 30 31 32 33 34 35 36 37	<p>場面⑥</p> <p>年中の男児 D が黙って船に乗ってくる。</p> <p>年少の男児 R もやって来て、黙って船に乗る。</p> <p>A と K は、M, D, R を乗せて船を動かす。</p> <p>M 「曲がります、曲がります!」</p> <p>K 「それいけー、それいけー、それいけー!」</p> <p>A 「それいけー、それいけー、それいけー!」</p> <p>M 「もっとスピード上げろー!」</p> <p>K 「M, A! ガソリンもうないぞー!」</p> <p>M は、船の修理を担当する。</p> <p>K 「修理したところは大丈夫か」</p> <p>A 「ガソリンは満タンだぞ」</p> <p>D, R は黙って乗っている。</p> <p>M 「お客さん、お客さん、降りてくださいよ」</p> <p>D 「やだよ」</p>	<p>場面の变化 9 D と R が船に乗る。</p> <p>行為の一定化 M, K, A は船乗りとなって船をおすことを続ける。</p> <p>行為の変化 9 船を止め、K と A はガソリンを入れ、M は船の修理を担当する。</p>

表2-2 場面④～⑥におけるメタと逆メタ

	場面④	場面⑤	場面⑥
発言	発言23	発言25, 27, 28	発言34
M	逆メタ	メタ	メタ
K	—	—	メタ
A	—	—	メタ
場面の变化			
行為の变化	◇Mが船に乗り、KとAが激しく船をおす（行為変化6）。		

修理」がメタ・コミュニケーションと「逆メタ」のどちらで機能していたかをみたものである。

#### <考察>

表2-2の場面④は、「ガソリン入れたら点検修理する！」（発言23）というMの発言が、K、Aにとってどのように受け取られているかを表したものである。Mの「点検修理」（発言23）という発言は、ガソリンを入れたらすぐに船を動かしたくない（船を止めたい）という意図がある。これは、場面⑤の場面と行為の繰り返しや、点検修理はせずに船を動かしたこと（行為変化8）からいえる。しかし、行為の変化8からみてもK、Aは早く船を動かしたい気持ちがある。場面④はMによる「点検・修理」という、船を止めたい意図のある「逆メタ」が発信されるが、K、Aには届いていない場面といえる。

表2-2の場面⑤は、「ちょっと待って点検しなきゃ！」（発言25）、「K、点検しようよ！」（発言27）、「修理しなくちゃ」（発言28）というMの発言が、K、Aにとってどのように受け取られているかを表したものである。場面⑤は、場面④に続いてMが「点検・修理」をK、Aに訴え続ける場面である。船の点検・修理をしたいMに対し、K、Aは乗り気ではないことが3人のやりとりである発言25～28からみてもわかる。点検・修

理というメタ・メッセージを受け取っていないK、Aは「—」である。

表2-2の場面⑥は、「修理したところは大丈夫か」（発言34）というKの発言が、M、Aにとってどのように受け取られているかを表したものである。場面⑥では、年中児のD、年少児のRがごっこ遊びに入ってくる。場面⑤の「点検・修理」の話題は一旦消え、H、Tを乗せた時のように再び客を乗せて船をおす。発言29～32から、船乗りごっこが非常に盛り上がった場面である。Kの「M、A！ガソリンもうないぞ」（発言33）を受けて船は止まる。その時Mは、場面④～⑤で望んでいた船の修理を行う。KはMに「修理したところは大丈夫か」（発言34）と声をかけていることから、Mのメタ・メッセージは場面⑥でようやく届いたといえる。

#### (3) せっけん：場面⑦～⑧

表3-1は、「船乗りごっこ」の場面⑦～⑧である。ここでは、「せっけん」が逆メタ・コミュニケーションのキーワードとして登場する。表3-2は、この場面⑦～⑧のそれぞれの幼児の発言の中で、「せっけん」がメタ・コミュニケーションと「逆メタ」のどちらで機能していたかをみたものである。

表3-1 せっけん：場面⑦～⑧

(メンバー：K、A、M [いずれも年長クラスの男児] D [年中クラスの男児])

発言	事 例	行為と場面の变化
38	場面⑦ K 「これはせっけん」 Kは砂を船にかけて、せっけんで船を掃除する真似をする。	行為の変化10 これまでガソリンを入れるだけであったKが、砂をせっけんに見立てて船の掃除を始め、M、AもKに

39	M	「お客さん降りてくださいーい」 Dは船から降りる。	続く。 場面の変化10 Dは船から降りる。
40	場面⑧ K	「せっけんせっけん」 K, M, Aは、砂を船にどンドンかけていき、掃除をする。 M, Aは船にかけた砂を再び手ではらい、ブラッシングの真似をする。 Dが船に戻って来て、まだ乗っているRと共に席に座る。	行為の一定化 K, M, Aは船の掃除を続ける。  場面の変化11 Dが戻ってくる。
41	M	「お客様、降りてくださいーい…」	
42	A	「もう洗ったから」  (中略) 船に何人もの年少、年中児が集まってきた為、K, M, Aは手を繋いで保育室へ戻る。	

表3-2 場面⑦～⑧におけるメタと逆メタ

	場面⑦	場面⑧
発言	発言38	発言40
M	メタ	メタ
K	メタ	メタ
A	メタ	逆メタ
場面の变化		◇Dが再び船に戻ってくる(場面変化11)。
行為の变化		

<考察>

表3-2の場面⑦は、「これはせっけん」(発言38)というKの発言が、M, Aにとってどのように受け取られているかを表したものである。行為の変化10から、これまで「ガソリン」であった砂は、「せっけん」となった。Kの「せっけん」は、M, Aにすぐに受け入れられ、3人で船の掃除を始める。そして「お客さん、降りてくださいーい」(発言39)のMのメタ・メッセージを受け、「やだよう」(発言37)と船を降りるのを拒んでいたDが、船から降りる。

表3-2の場面⑧は、「せっけんせっけん」(発言40)というKの発言が、M, Aにとってどのように受け取られているかを表したものである。場面⑧の行為の一定化からも、M, K, Aは「せっけん」で掃除をすることに夢中になっていることがわかる。そこへ船を降りたDが船に戻ってくる。Aは「もう洗ったから」(発言42)と答える。Dが戻ったことで、Aはせっけんで船を洗い終わらせ、Dを乗せて船を動かしてもいいので

はというKやMに向けた「逆メタ」であるといえる。

Ⅳ 総合考察

本研究では、逆メタ・コミュニケーションに着目しつつ、幼児のごっこ遊びがどのように変容するのかを分析してきた。これらを踏まえて、総合考察として2点について言及したい。

一つ目は、「ガソリン」「点検・修理」「せっけん」という「逆メタ」は、それを発話した子どもの欲求や意図だけでなく、その意図がなくとも効果としてそう受け取られるという複雑な様相を示している点である。発話者が意図的に「逆メタ」を発信したり(場面④)、発話者の意図が不明瞭でも聞き手が「メタ」を「逆メタ」と捉えたり(場面①)、聞き手が「メタ」を「逆メタ」で返答したりする(場面⑧)など、多様な「逆メタ」の姿が明らかになった。発信者の意図としての「逆メタ」だけでなく、受け手の効果としての「逆メタ」もあり得るということを示している。

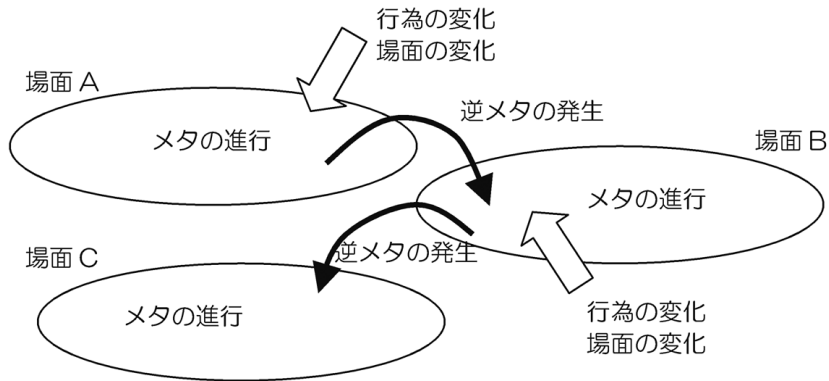


図1 メタと逆メタによるごっこ遊びの変容モデル試論

二つ目に、「ガソリン」「点検・修理」「せっけん」という「逆メタ」の発生には、必ず先行してきっかけとなる場面の变化と行為の変化が存在することが明らかになったことである。「ガソリン」には、期せずして年少児が船に乗り込むという場面の变化と、船の押し役となってしまった行為の変化が、「点検・修理」には、激しく船を揺さぶるKとAの行為の変化、「せっけん」には、年中児Dが船に戻ってくるという場面の变化があった。こうした先行してある場面と行為の変化が、「逆メタ」の発生の誘因となり、さらにその「逆メタ」が次の場面の「メタ」として展開していくのである。これらをモデル化すれば、図1のようになる。

もちろん図1は、本事例から導きだされた試論であり、今後検証や修正していくことが必要であるが、本研究からは、少なくとも「逆メタ」がごっこ遊びの変容に影響を及ぼしていることは確認できた。

ごっこ遊びがどのように発生し、どのように展開し、どのように収束するかについては、いまだに謎な部分が多い。「逆メタ」の視点を入れることによって、そのプロセスは十分に明らかにされていない。ただ、本研究の「逆メタ」の研究が、謎多き「ごっこ遊び」の解明に向けてのなんらかの一助になればと願う。

#### <参考文献>

- (1) 加用文男, 1981, 子どもの遊びにおける「現実」と「虚構」の認知的分化—理論と予備調査—, 東

京大学教育学部紀要 20, 343-351

- (2) 加用文男, 1992, ごっこ遊びの矛盾に関する研究—心理状態主義へのアプローチ—, 心理科学 14, 1-19
- (3) 加用文男・新名加苗・河田有世・村尾静香・牧ルミ子, 1996, ごっこにおける言語行為の発達の分析—方言と共通語の使い分けに着眼して—, 心理科学 14, 1-19
- (4) 加用文男, 1998, 遊びに生きる子どもの多重世界・麻生武・綿巻徹編 遊びという謎 第2章, 35-61, ミネルヴァ書房
- (5) 刈田知則, 2001, 子どもの隠れる行為の劇学的分析・やまだようこ・サトウタツヤ・南博文, カタログ現場心理学—表現の冒険, 156-163, 金子書房
- (6) 小山優子, 1998, 幼児教育における質的研究の方法論的—試案—幼児のごっこ遊びの事例分析を通して—, 保育学研究 第36巻 第2号, 53-60
- (7) 富田昌平, 1996, 幼児の共同ふり遊び場面におけるメタコミュニケーション, 幼年教育研究年報 第23巻, 35-42

付記 本研究は、平成21年度大学評価・学位授与機構提出論文に、加筆修正をおこなったものである。